

対外・対内証券投資の動向(2018年7月分)

対外・対内ネットでは資金流出超に

- 財務省の「対外及び対内証券売買契約等の状況(指定報告機関ベース)」によると、7月の対外証券投資は+2兆3,672億円(前月は+2兆4,853億円)と2か月連続で取得超となった。他方、対内証券投資は▲1兆4,429億円(前月は+3兆8,263億円の取得超)の処分超に転じた。この結果、対外・対内ネット合計では▲3兆8,101億円(前月は+1兆3,410億円の資金流入超)と資金流出超へ転じた。
- 7月の対外証券投資は、中長期債は買い越し額が前月の+1兆591億円から+1兆2,852億円に拡大した。一方、株式・投資ファンド持分は買い越し額が前月の+1兆5,541億円から+1兆2,240億円に縮小した。短期債は売り越し額が前月の▲1,279億円から▲1,420億円へ拡大した。
- 投資家部門別では、金融商品取引業者は買い越し額が前月の+8,424億円から+1兆8億円に拡大した。一方、預金取扱機関は買い越し額が前月の+1兆2,310億円から+1兆826億円へと縮小した。また、投資信託委託会社等は買い越し額が前月の+4,891億円から+4,447億円へと縮小し、銀行等及び信託銀行(信託勘定)も買い越し額が前月の+5,682億円から+1,097億円に縮小した。このほか、生命保険会社は+2,416億円の買い越し(前月は▲308億円の売り越し)に転じた。
- 7月の対内証券投資では、短期債は▲3兆211億円の売り越し(前月は+4兆3,847億円の買い越し)に転じたほか、中長期債は買い越し額が前月の+4,446億円から+9,403億円へと拡大。他方、株式・投資ファンド持分は+6,380億円の買い越し(前月は▲1兆30億円の売り越し)に転じた。

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔

03-3242-7065

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

佐々木 貴彦

03-3242-7065

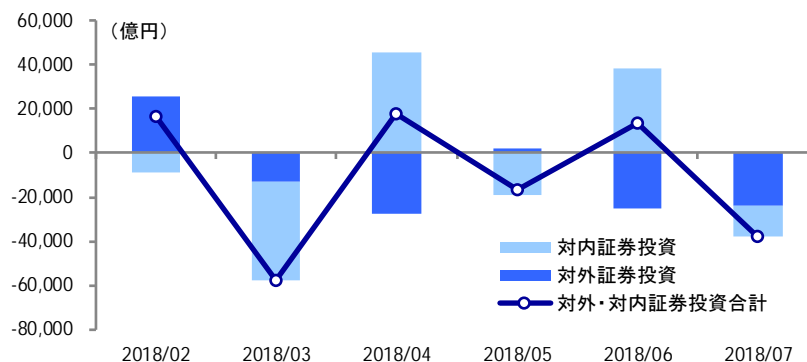
takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

浅野 江梨子

03-3242-7065

eriko.b.asano@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 対外・対内証券投資の動向



(注)ここでは、プラスは資金流入超、マイナスは資金流出超を示す。

(資料)財務省、INDB、みずほ銀行

(※図表の計数は詳細項目から合算しており、公表値と僅かに一致しない場合がある。以下同。)

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上